

2025 ASIAN ROWING Championships

Report 3 (10/16,17)

10月16日(木)

アジア選手権初日、日本代表チームのレースはないものの、会場は大会独特の緊張感に包まれておりました。

この日の日本代表チームは レース前の時間帯に水上にて調整を進めました。



M1x 武田選手(関西電力)



M2x クルー(写真左から)S 櫻間選手(NTT 東日本)、
B 宮口選手(NTT 東日本)



M2-クルー(写真左から)S 蛭川選手(明治安田)、B
牛田選手(明治安田)



トレーニング
後に佐藤
コーチとミー
ティングをす
るM2-クルー。



コース沿いの伴走できる通路はスタンド前で切れており、自転車による伴走ができないため、コーチはスタンドからクルーの状況を確認しております。

10月17日(金)

いよいよ、日本代表チームのレースが始まります。各クルー、暑さへの対策をしながら準備を進めそれぞれのレースに挑みました。

M1x予選

徐々に逆風が強くなるコンディションの中スタート。1位インドから4位日本までが2.97秒差にひしめき合う展開で500mを通過。第2クォーターに入ると、日本は逆風の中で体格に勝るインド、インドネシア、ベトナムからじりじりと離され始め、1000mをトップのインドから8.44秒差で通過。5位フィリピン、6位韓国は遅れる。第3クォーターで踏みとどまるも差は詰まらず、ラストクォーターで必死に上げ先行するクルーとの差を詰めるが僅かに及ばず4位でゴール。着順での決勝進出はならず、タイムでもあと一步及ばず、FinalBに進むこととなった。



【写真上】M1x出艇の様子。



【写真右】ゴール前、先行するクルーとの差を詰めるM1x 武田選手(関西電力)

M2x予選

スタートから頭一つ抜け出し、500mで2位タイに4.27秒差をつける展開に。第2クォーターでもダイナミックなローイングを継続し独走状態となる。早々と勝負を決め、予選の2時間後に準決勝があることと、上昇する気温なども考慮しながらペースをつくり余力をもって1位でゴール。2時間後に行われる準決勝にコマを進めた。



力強いドライブで他国を圧倒したM2x クルー(写真左から)B 宮口選手(NTT 東日本)、S 櫻間選手(NTT 東日本)

M2-予選

ベトナムチームのボートトラブルがあり、20分程度遅れてのスタート。M2-クルーは二人とも日本代表としては初めての国際大会ではあるが、冷静に対応し、落ち着いて相手が見える3位でレースを進める。ただ、レースが進むにつれ逆風が強くなる中、中盤から徐々に離され始めるが、何とか踏みとどまり、第4クォーターで2位のインドに迫ろうとするが一歩及ばず。着順での決勝進出は逃したが、タイムで決勝進出を決めた。



【写真上】M2-出艇の様子。

【写真左】必死に前との差を詰めようとするM2-クルー(写真左から)B 牛田選手(明治安田)、S 蛭川選手(明治安田)

M2x準決勝

クルーによってはレース間隔が1時間50分になる過密なスケジュールと、湿度が高い中、気温も30度を超える過酷な条件で行われたM2xの準決勝。このレースでも、スタートから頭一つ抜け出し自分たちのスピードを目指し、2位イラクとの差が500mで2.94秒、1000mでは4.74秒差と広げていく。そのまま大きなローイングを保ち、危なげなく1位でゴール。見事決勝進出を決めた。



【写真上】ハードスケジュールでも笑顔で出艇するM2xクルー。

【写真右】余裕を持って1位でゴールをするM2xクルー(一番左のクルー。)



日本代表チームの次のレースは、10月19日(日)になります。引き続きご声援よろしくお願いいたします